■完成区間の概要

別紙

東九州自動車道は、九州の東部において、北九州市を起点とし、福岡、大分、宮崎、鹿児島の各県を結び、鹿児島市に至る全長436kmの高速自動車国道です。路線の沿線には、農林水産業が盛んな地域をはじめ、多くの重要港湾や空港等の交通拠点、北九州市、大分市、延岡市、霧島市等に代表される工業都市が位置しており、九州の産業・経済・観光などの発展に重要な役割を担っています。

このうち、大分県の北部に位置する宇佐IC～院内IC間（4.6km）のうち、本線部分の3.1kmについて4車線化が完成します。4車線の交通運用開始に伴い、災害時のリダンダンシー機能の強化が図れ、安全性・信頼性等の向上が期待されます。

〔路線概要〕

- 路　　線　　名　：東九州自動車道
- 道　　路　　名　：E10　東九州自動車道
- 区間および延長　：宇佐IC　～　院内IC　（4.6km）
  （大分県宇佐市大字山本～大分県宇佐市院内町櫛野）

〔4車線化完成区間〕

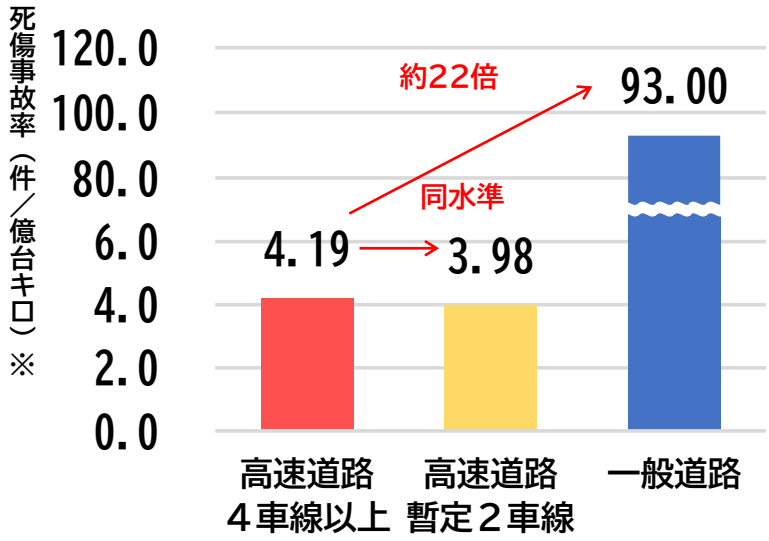
- 区間および延長　：宇佐IC　～　院内IC のうち本線部分（3.1km）
  （大分県宇佐市大字山本～大分県宇佐市院内町櫛野）

◆今回完成区間の位置図

■さらなる安全性の向上

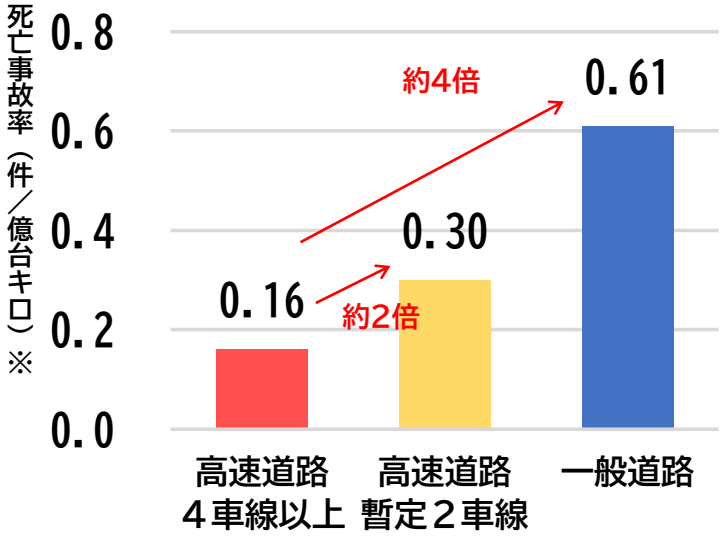
- 対面通行による暫定2車線区間は、4車線区間に比べて、交通事故が発生した場合、死亡事故となる割合が高くなっています。
- 4車線化により、中央分離帯を設置し上下線が分離されることで、対向車線への飛び出しを防止し、安全性が向上することが期待されます。

＜死傷事故率＞



※高速道路：高速自動車国道（有料）（H25）
一般道路：H25

＜死亡事故率＞



資料：道路分科会第13回事業評価部会（H28.3.10）

4車線化により上下線を分離することで、対向車線への飛び出し防止など安全性が向上

■災害時のリダンダンシー機能強化

- 異常降雨によるのり面崩壊等の災害時において、対面通行となる暫定2車線区間では、復旧工事がすべて終わらなければ通行する車線を確保することが困難なことから、通行止めが長時間必要になります。
- 4車線以上の区間では、被災した側の車線の復旧工事を行いながら、同時に反対側の車線を対面通行運用するなど、車線を有効に活用することで、災害時の迅速な交通確保などが可能となります。

《暫定2車線区間の災害復旧事例》

区間： E10 東九州自動車道
椎田南IC～豊前IC
概要： 平成30年7月豪雨　のり面崩壊

暫定2車線区間は、復旧作業が終わらないと交通確保が困難

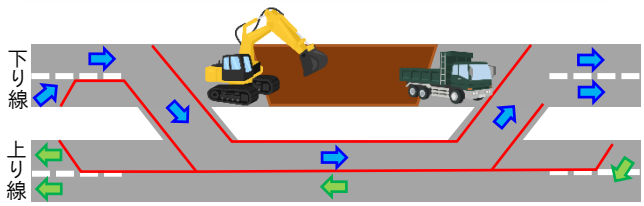
全面通行止め：約1か月間

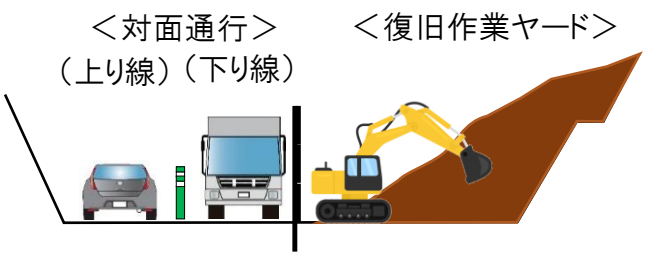
《4車線区間の災害復旧事例》

区間： E3 九州自動車道
溝辺鹿児島空港IC～加治木JCT
概要： 令和元年7月九州豪雨　のり面崩壊

※上り線を対面通行で運用し、復旧作業を実施

4車線のうち、2車線を復旧作業の施工ヤードとして利用し、早期に交通を確保





全面通行止め：約2日間